

社会福祉法人 岡山県視覚障害者協会定款

# 社会福祉法人 岡山県視覚障害者協会定款

## 第 1 章 総 則

### ( 目 的 )

第1条 この社会福祉法人（以下「法人」という。）は、岡山県下在住の視覚障害者等に多様な福祉サービスがその利用者の意向を尊重して総合的に提供されるよう創意工夫することにより、利用者が、個人の尊厳を保持しつつ、自立した生活を地域社会において営むことができるよう支援することを目的として、次の社会福祉事業を行う。

#### (1) 第一種社会福祉事業

- (イ) 障害者支援施設の経営
- (ロ) 養護盲老人ホームの経営
- (ハ) 特別養護老人ホームの経営

#### (2) 第二種社会福祉事業

- (イ) 障害福祉サービス事業の経営
- (ロ) 視覚障害者の更生相談に応じる事業
- (ハ) 岡山県視覚障害者センターの指定管理
- (ニ) 特定相談支援事業の経営
- (ホ) 障害児相談支援事業の経営
- (ハ) 老人短期入所事業の経営

### ( 名 称 )

第2条 この法人は、社会福祉法人岡山県視覚障害者協会という。

### ( 経営の原則 )

第3条 この法人は、社会福祉事業の主たる担い手としてふさわしい事業を確実、効果的かつ適正に行うため、自主的にその経営基盤の強化を図るとともに、その提供する福祉サービスの質の向上並びに事業経営の透明性の確保を図り、もって地域福祉の推進に努めるものとする。

### ( 事務所の所在地 )

第4条 この法人の事務所を岡山市中区原尾島四丁目17番37号に置く。

## 第 2 章 役員及び職員

### ( 役員の数 )

第5条 この法人には、次の役員を置く。

(1) 理事 15名

(2) 監事 2名

2 理事のうち1名は、理事の互選により、会長となる。

3 会長は、この法人を代表する。

4 会長は理事会の同意を得て、理事のうち2名を指名して常務理事とすることができる。

5 常務理事は会長を補佐し、会長の命を受けて、1名は主としてこの法人の施設福祉に関する業務を処理し、他の1名は主としてこの法人の在宅福祉に関する業務を処理する。

6 役員の選任に当たっては、各役員について、その親族その他特殊の関係がある者が、理事のうちに3名を超えて含まれてはならず、監事のうちにこれらの者が含まれてはならない。

(役員任期)

第6条 役員任期は2年とする。ただし、補欠の役員任期は、前任者の残任期間とする。

2 役員は再任されることができる。

3 会長の任期は、理事として在任する期間とする。

(役員選任等)

第7条 理事は、評議員会において選任し、会長が委嘱する。

2 監事は、評議員会において選任する。

3 監事は、この法人の理事、評議員、職員及びこれらに類する他の職務を兼任することができない。

(役員報酬等)

第8条 役員報酬については、勤務実態に即して支給することとし、役員の地位にあることのみによっては、支給しない。

2 役員には費用を弁償することができる。

3 前2項に関し必要な事項は、理事会の議決を経て、会長が別に定める。

(理事会)

第9条 この法人の業務の決定は、理事をもって組織する理事会によって行う。ただし、日常の業務として理事会が定めるものについては会長が専決し、これを理事会に報告する。

2 理事会は、会長がこれを招集する。

3 会長は、理事総数の3分の1以上の理事又は監事から会議に付議すべき事項を示して理事会の招集を請求された場合には、その請求のあった日から1週間以内にこれを招集しなければならない。

4 理事会に議長を置き、議長はその都度選任する。

- 5 理事会は、理事総数の3分の2以上の出席がなければ、その議事を開き、議決することができない。
- 6 前項の場合において、あらかじめ書面をもって、欠席の理由及び理事会に付議される事項についての意思を表示した者は、出席者とみなす。
- 7 理事会の議事は、法令に特別の定めがある場合及びこの定款に別段の定めがある場合を除き、理事総数の過半数で決定し、可否同数のときは、議長の決するところによる。
- 8 理事会の決議について、特別の利害関係を有する理事は、その議事の議決に加わることができない。
- 9 議長及び理事会において選任した理事2名は、理事会の議事について議事の経過の要領及びその結果を記載した議事録を作成し、これに署名又は記名押印しなければならない。

#### (会長の職務の代理)

- 第10条 会長に事故あるとき、又は欠けたときは在宅福祉事業担当の常務理事が、在宅福祉事業担当の常務理事に事故あるとき、又は欠けたときは、会長があらかじめ指名する他の理事が、順次に会長の職務を代理する。
- 2 会長個人と利益相反する行為となる事項及び双方代理となる事項については、理事会において選任する他の理事が会長の職務を代理する。

#### (監事による監査)

- 第11条 監事は、理事の業務執行の状況及び法人の財産の状況を監査しなければならない。
- 2 監事は、毎年定期的に監査報告書を作成し、理事会、評議員会及び岡山市長に報告するものとする。
  - 3 監事は、前項に定めるほか、必要があると認めるときは、理事会及び評議員会に出席して意見を述べるものとする。

#### (職員)

- 第12条 この法人に、職員若干名を置く。
- 2 この法人の設置経営する施設の長(以下「施設長」という。)は、理事会の議決を経て、会長が任免する。
  - 3 施設長以外の職員は、会長が任免する。

### 第 3 章 評議員及び評議員会

#### (評議員会)

- 第13条 評議員会は、31名の評議員をもって組織する。
- 2 評議員会は、会長が招集する。

- 3 会長は、評議員総数の3分の1以上の評議員又は監事から会議に付議すべき事項を示して評議員会の招集を請求された場合には、その請求のあった日から20日以内に、これを招集しなければならない。
- 4 評議員会に議長を置く。
- 5 議長は、その都度評議員の互選で定める。
- 6 評議員会は、評議員総数の過半数の出席がなければ、その議事を開き、議決することができない。
- 7 評議員会の議事は、評議員総数の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。
- 8 評議員会の決議について、特別の利害関係を有する評議員は、その議事の議決に加わることができない。
- 9 議長及び評議員会において選任した評議員2名は、評議員会の議事について議事の経過の要領及びその結果を記載した議事録を作成し、これに署名又は記名押印しなければならない。
- 10 評議員の報酬については、勤務実態に即して支給することとし、評議員の地位にあることのみによっては、支給しない。

(評議員会の権限)

第14条 評議員会は、次に掲げる事項を審議する。

- (1) 予算、決算、基本財産の処分、事業計画及び事業報告
- (2) 予算外の新たな義務の負担又は権利の放棄
- (3) 定款の変更
- (4) 合併
- (5) 解散(合併又は破産による解散を除く。以下この条において同じ。)
- (6) 解散した場合における残余財産の帰属者の選定
- (7) その他、この法人の業務に関する重要事項で、理事会において必要と認める事項

2 理事会は、前項に掲げる事項を決定しようとするときは、原則として、あらかじめ評議員会の意見を聴かなければならない。

(同前)

第15条 評議員会は、この法人の業務若しくは財産の状況又は役員の業務執行の状況について、役員に対して意見を述べ若しくはその諮問に答え又は役員から報告を徴することができる。

(評議員の資格等)

第16条 評議員は、社会福祉事業に関心を持ち、又は学識経験ある者で、この法人の趣旨に賛成して協力する者の中から理事会の同意を経て、会長がこれを委嘱する。

2 評議員の委嘱に当たっては、各評議員について、その親族その他特殊

の関係がある者が3名を超えて含まれてはならない。

(評議員の任期)

第 17 条 評議員の任期は2年とする。ただし、補欠の評議員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 評議員は、再任されることができる。

## 第 4 章 資産及び会計

(資産の区分)

第 18 条 この法人の資産は、これを分けて基本財産、運用財産及び公益事業用財産の3種とする。

2 基本財産は、次の各号に掲げる財産をもって構成する。

(1) 岡山市中区原尾島四丁目 767 番 1、768 番 7 に所在する岡星寮敷地 (1,152.09 平方メートル)

(2) 岡山市中区原尾島四丁目 767 番地 1 に所在する鉄筋コンクリート造陸屋根 2 階建 1 棟 (871.21 平方メートル)

(3) 岡山市中区原尾島四丁目 767 番地 1 に所在する軽量鉄骨造亜鉛メッキ鋼板葺 2 階建 1 棟 (84.86 平方メートル)

(4) 備前市鶴海字大暮 2401 番 1 に所在する鶴海荘、第二鶴海荘敷地 (5924.80 平方メートル)

(5) 備前市鶴海字大暮 2401 番地 1 に所在する鉄骨鉄筋コンクリート造スレート葺 2 階建 1 棟 (1,469.49 平方メートル)

(6) 備前市鶴海字大暮 2401 番地 1、2401 番地 3、2404 番地 1、2404 番地 2、2405 番地、2406 番地 2 に所在する鉄筋コンクリート造ルーフィング葺陸屋根地下一階付平屋建 1 棟 (1,220.74 平方メートル)

3 運用財産は、基本財産及び公益事業用財産以外の財産とする。

4 公益事業用財産は、第 27 条に掲げる公益を目的とする事業の用に供する財産とする。

5 基本財産に指定されて寄附された金品は、速やかに第 2 項に掲げるため、必要な手続をとらなければならない。

(基本財産の処分)

第 19 条 基本財産を処分し、又は担保に供しようとするときは、理事総数の3分の2以上の同意を得て、岡山市長の承認を得なければならない。

ただし、次の各号に掲げる場合には、岡山市長の承認は必要としない。

(1) 独立行政法人福祉医療機構に対して基本財産を担保に供する場合

(2) 独立行政法人福祉医療機構と協調融資（独立行政法人福祉医療機構の福祉貸付が行う施設整備のための資金に対する融資と併せて行う同一の財産を担保とする当該施設整備のための資金に対する融資をいう。以下同じ。）に関する契約を結んだ民間金融機関に対して基本財産を担保に供する場合（協調融資に係る担保に限る。）

（資産の管理）

第 20 条 この法人の資産は、理事会の定める方法により、会長が管理する。

2 資産のうち現金は、確実な金融機関に預け入れ、確実な信託会社に信託し、又は確実な有価証券に換えて、保管する。

（特別会計）

第 21 条 この法人は、特別会計を設けることができる。

（ 予 算 ）

第 22 条 この法人の予算は、毎会計年度開始前に、会長において編成し、理事総数の3分の2以上の同意を得なければならない。

（ 決 算 ）

第 23 条 この法人の事業報告書、財産目録、貸借対照表及び収支計算書は、毎会計年度終了後2月以内に会長において作成し、監事の監査を経てから、理事会の認定を得なければならない。

2 前項の認定を受けた書類及びこれに関する監事の意見を記載した書面については、各事務所に備えて置くとともに、この法人が提供する福祉サービスの利用を希望する者その他の利害関係人から請求があった場合には、正当な理由がある場合を除いて、これを閲覧に供しなければならない。

3 会計の決算上繰越金を生じたときは、次会計年度に繰り越すものとする。

ただし、必要な場合には、その全部又は一部を基本財産に編入することができる。

（会計年度）

第 24 条 この法人の会計年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日をもって終わる。

（会計処理の基準）

第 25 条 この法人の会計に関しては、法令等及びこの定款に定めのあるもの

のほか、理事会において定める経理規程により処理する。

（臨機の措置）

第 26 条 予算をもって定めるもののほか、新たに義務の負担をし、又は権利の放棄をしようとするときは、理事総数の3分の2以上の同意がなければならない。

## 第 5 章 公益を目的とする事業

（種別）

第 27 条 この法人は、社会福祉法第26条の規定により、利用者が、個人の尊厳を保持しつつ、自立した生活を地域社会において営むことができるよう支援することなどを目的として、次の事業を行う。

（1） 地域生活支援社会参加促進事業

（2） 地域生活支援事業（生活訓練等事業）

2 前項の事業の運営に関する事項については、理事総数の3分の2以上の同意を得なければならない。

（剰余金が出た場合の処分）

第 28 条 前条の規定によって行う事業から剰余金が生じた場合は、この法人の行う社会福祉事業又は公益事業に充てるものとする。

## 第 6 章 解散及び合併

（解散）

第 29 条 この法人は、社会福祉法第46条第1項第1号及び第3号から第6号までの解散事由により解散する。

（残余財産の帰属）

第 30 条 解散（合併又は破産による解散を除く。）した場合における残余財産は、理事総数の3分の2以上の同意によって社会福祉法人のうちから選出されたものに帰属する。

（合併）

第 31 条 合併しようとするときは、理事総数の3分の2以上の同意を得て、岡山市長の認可を受けなければならない。



## 第 7 章

## 定款の変更

(定款の変更)

第 32 条 この定款を変更しようとするときは、理事総数の3分の2以上の同意を得て、岡山市長の認可（社会福祉法第43条第1項に規定する厚生労働省令で定める事項に係るものを除く。）を受けなければならない。

2 前項の厚生労働省令で定める事項に係る定款の変更をしたときは、遅滞なくその旨を岡山市長に届け出なければならない。

## 第 8 章

## 公告の方法その他

(公告の方法)

第 33 条 この法人の公告は、社会福祉法人岡山県視覚障害者協会事務所の掲示場に掲示するとともに、官報または新聞に掲載して行う。

(施行細則)

第 34 条 この定款の施行についての細則は、理事会において定める。

## 附則

この法人の設立当初の役員は、次のとおりとする。ただし、この法人の設立後遅滞なく、この定款に基づき、役員を選任を行うものとする。

理事・高原政孝  
理事・竹原邦武  
理事・小山代造  
監事・田中恒雄

理事・稲谷四良  
理事・村木仁恵  
理事・岸本重太郎  
監事・三宅辰一

理事・大賀 薫  
理事・藤田虎雄  
理事・江口 毅

理事・大月忠道  
理事・小林忠夫

設立代表者 小林忠夫

定款は、  
昭和28年10月29日 厚生大臣認可  
昭和31年12月12日 一部改正  
昭和34年12月21日 一部改正  
昭和40年 9月29日 一部改正

昭和43年	9月13日	一部改正
昭和46年	1月29日	一部改正
昭和46年	8月16日	一部改正
昭和49年	3月27日	一部改正
昭和51年	4月4日	一部改正
昭和52年	2月28日	一部改正
昭和52年1	1月8日	一部改正
昭和56年	8月10日	一部改正
昭和58年1	2月26日	一部改正
昭和60年	7月12日	一部改正
昭和63年	7月9日	一部改正
平成3年1	2月5日	一部改正
平成4年	3月29日	一部改正
平成6年	7月31日	一部改正
平成7年	3月26日	一部改正
平成8年	4月1日	一部改正
平成8年1	0月7日	一部改正
平成11年	1月17日	一部改正
平成12年	6月27日	一部改正
平成13年	8月30日	一部改正
平成15年	8月14日	一部改正
平成17年	7月19日	一部改正
平成18年	6月21日	一部改正
平成23年	3月8日	一部改正
平成24年	8月31日	一部改正
平成26年	3月14日	一部改正
平成28年	7月25日	一部改正